

成果を共有し知識高める

～営農指導員成果発表会～

2月1日、本店で営農指導員成果発表会を開き、営農指導員9人が取り組みの成果を発表しました。

佐藤佳克常務は「指導員の皆さんが熱心に取り組んできたことの成果が、栽培技術の向上や地域農業の活性化に繋がることを期待している」と激励しました。

指導員はパワーポイントを使って発表し、役職員が資料、発表する姿勢、全体の構成や内容を審査しました。審査の結果、「大玉トマトの品種更新」について発表した尾上基幹グリーンセンターの岩崎貴則指導員が最優秀賞に選ばれました。岩崎指導員は、第48回青森県農協営農指導員研修大会で発表します。



最優秀賞を受賞した岩崎指導員

農薬・肥料の知識高める

～職員のスキルアップ研修会～

1月25日、本店で購買窓口担当職員と若手営農指導員のスキルアップのための研修会を開きました。午前と午後の2回行い、約50人の職員が、農薬や肥料、農業資材の効果と特徴を学びました。

ベテランの営農指導員4人が講師を務め、令和2年産用りんご・水稻防除暦から登録が変更された農薬や農業用ドローンを所有している生産者が増えたことによるドローン用の薬剤の注意点などを説明しました。

購買窓口担当職員は「学んだことを生かし、生産者からの要望に的確な対応をできるように努めたい」と意気込みました。



農薬や肥料などを学ぶ職員

品目ごとに知識を習得

～冬期農業講座～

2月5日、農閑期を利用した冬期農業講座を開きました。農業に関する情報や専門知識の習得のため、りんご部門と水稻部門を設け、生産者自ら選択して参加します。

りんご部門では、新屋支店管内の園地で剪定会を開き、約200人が参加。剪定士、県りんご協会の技士ら8人が講師を務め、主力品種「ふじ」の普通栽培とわい化栽培、半わい化栽培の木を実際に剪定しながら作業のポイントや枝の性質、注意点について説明しました。

水稻部門では、米動向と今後の展望とクリーンライス薬剤の変更についての説明会をJ A本店で開き、約50人が参加しました。



りんご部門の剪定会



水稻部門の説明会